

林業機械化推進シンポジウム

最新機械の導入で生産性向上 路網整備の更なる進展を提言



今富教授（左）と基調講演の風景

林野庁と一般社団法人フォレスト・サーベイの主催による平成29年度「林業機械化推進シンポジウム」が2月9日、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された。

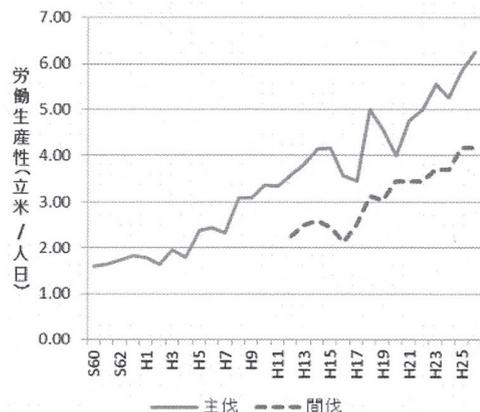
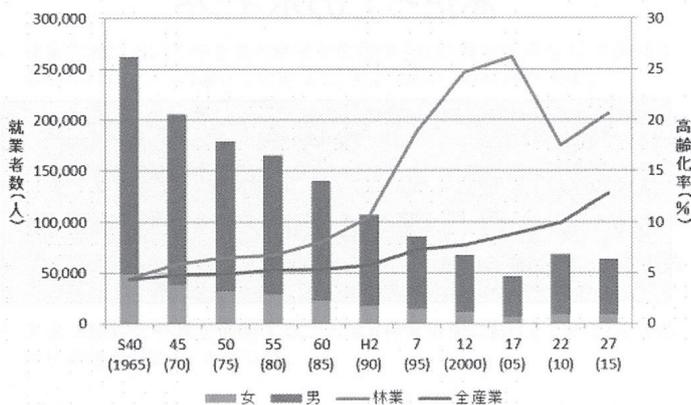
このシンポジウムは国内の林業における作業の高度機械の導入事例紹介及び導入効果を検証するもの。近年は林業においても機械の導入が進

み、車両系では枝払いや測尺を行うプロセッサ、切り出した丸太を運搬するフォワーダなどを中心とした効率的な作業システムが定着している。また、架線系では集材機能に優れたスイングヤーダの普及が進み、作業時間の短縮も実現してきた。その一方、傾斜地での作業においては機械化が進んでおらず、依然として人間の手によって作業しているという実態がある。このため、林業は他の産業と比べて労働災害の発生率が高く、生産性向上という面においても大きな課題を残している。

今回のシンポジウムでは、労働災害の防止や作業の軽労化を図り、林業の生産性を高める機械導入事例を紹介し、林業機械の新技术、積極的な人材育成などを考察。最新の集材機械の機能、ドローンを活用した新技术の活用事例、IT技術による作業管理技術などが発表された。

「きつい」から「快適」に

基調講演では、東京農業大学の今富裕樹教授が「新しい林業労働への展開・3K労働から新3K労働へ」と題し、林業の現状と労働状況の改



林業就業者数の推移 (左) と素材生産における労働生産性の推移